

平成20年度 第2回豊田市商業振興委員会会議録

【日時】 平成20年9月30日(火) 午後2時～5時

【場所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 委員
加藤 勇夫〔愛知学院大学商学部客員教授〕
河木 照雄〔豊田商工会議所副会頭〕
杉戸 厚吉〔社団法人地域問題研究所計画部長〕
浅井 良隆〔コンサルティング・オフィス アット・ドリーム代表〕
澤田 恵美子〔豊田市消費者グループ連絡会会長〕
松井 栄子〔三州足助公社〕
福岡 朋子〔愛知教育大学 学生〕
事務局
関 範夫〔豊田市産業部長〕
鈴木 辰吉〔豊田市産業部調整監〕
宮川 龍也〔豊田市産業部商業観光課長〕
横山 薫〔豊田市商業観光課副主幹〕
清水 章〔豊田市産業部商業観光課係長〕
小林 洋明〔豊田市産業部商業観光課主査〕
安川 佳孝〔豊田市産業部商業観光課主事〕
傍聴者
なし

- 【次第】 1 開 会
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 産業部長あいさつ
- 4 委員長あいさつ
- 5 報告事項
(1) 中心市街地活性化基本計画について (資料1)
(2) 地域商業活性化支援事業について (資料2)
- 6 審議事項
(1) 商店街活性化計画について
・稲武商工会 (資料3)
(2) 経営革新モデル店舗支援事業について
・西町商店街協同組合 (資料4)
- 7 その他
(1) 中心市街地活性化長期計画について (資料5)
- 8 閉 会

【会議録（要約表記）】

1 開会

事務局より、平成20年度第2回豊田市商業振興委員会の開会の宣言が行われた。

2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて

事務局より、資料の確認、傍聴人数、審議スケジュールについて説明が行われた。

3 産業部長あいさつ

中心市街地活性化基本計画が全国40番目として7月9日に認定を受けた。また、環境モデル都市の6候補に入った。原油・原材料高により中小企業が深刻な影響を受けているため、緊急経済対策として、融資の信用保証料補助を100%支援していく。

4 委員長あいさつ

中心市街地活性化基本計画が認定された。交通だけ良くなっても事業者の努力がなければ意味が無い。バランス良く進める必要がある。

5 報告事項

(1) 中心市街地活性化基本計画について

事務局より、資料1「豊田市中心市街地活性化基本計画（概要版）」に基づき内容説明を行った。

【主な質疑応答】

委員 TCCMの役割が重要。ハード面は着実に進められているが、にぎわいを創出するソフト事業をどれだけやるか。事業実施主体として求められる役割が大きい。

事務局 ハード的なきれいさだけでなく居心地の良さが必要。TCCMとの対話が重要。

委員 ハードだけ整備して失敗したところもある。まちを歩いて発見する楽しみもある。

委員 再開発する際に建築コンサルではなく、作ったら人が来る仕組みを考えられる商業コンサルを入れるべき。

事務局 議論することで気づきが出てくる。

委員 ある程度人為的にステージを作る必要がある。

委員 客目線からの意見が必要。客が商店街を回らずに個店で買物して終了してしまい、商店街の賑わいにならない。買い回りさせるような仕組み、ゾーニングが必要。

委員 どう人を集めるのか。歩いて見る楽しみがない。楽しさを探す仕組みも必要。

事務局 TCCMが頂点でエリアマネジメントをし、権限、財源まで持ち、何でもここで実施、調整できるような機関となることが目指すべきところ。中

心市街地が疲弊したのは、モータリゼーションによる。かつては歩きとバスしかなかったので人の集まる場所は決まっていた。車と人間の向き合い方を考えなければということで、交通というキーワードが入れてある。商売については、かつては売ってやるという姿勢の時代があった。今は買っていただく時代。意識改革が必要。

委員 普段から感じているがフリーパーキングと基幹・地域バスは矛盾していないか？

事務局 おっしゃるとおり。環境に配慮した歩いて回ることができるまちをつくろうとしながらフリーパーキングを実施している。それは、今現在、このまちを寂れないようにするために、車に乗ってでも来て頂かないと中心市街地の商業は潰れてしまう。段階的に進めていく必要がある。将来完全に車をシャットアウトというわけではなく、中心市街地付近までは車で来ていただき、そこからは歩くことも含め、別の交通手段を用いてもらい、上手く歩きと車をすり合わせしていく。また早い段階でバス、電車で来た人にはメリットがあるように進めていく。

(2) 地域商業活性化支援事業について

事務局より、資料2「地域商業活性化支援事業概要」に基づき内容説明を行った。

【主な質疑応答】

委員 事業実施後、1年以内に活性化計画は立てられるのか？スケジュールが急ぎすぎているか？

事務局 決して急いでいるわけではなく、自分たちで話し合いを続けていく土壌を作ることが目的。商店街組合員だけでなく、地域住民を入れ、話し合いを重ねることが大事。住民意見を上手く引き出すコンサルを入れている。

委員 派遣先は行政が選定したのか？来年以降も同じところに入れるのか？

事務局 今年はモデル事業として、やる気、活性化必要性、支援必要性、発展可能性を総合的に評価して選定した。今年派遣した商店街は、話し合いの出来る土壌が出来ていると考えるため、来年以降は希望を取り、別の団体へ派遣する予定。

委員 市から金が出るから実施するのではなく、コンサルがいなくても話し合いができるよう進めてもらわないといけない。効果が出るよう実施していく必要がある。

6 報告事項

(1) 商店街活性化計画について

・稲武商工会

稲武カード会 会長 新美氏、稲武商工会 松井氏より、資料3「稲武商店街活性化計画」に基づき内容説明を行い、認定の際に参考とする意見を委員からいただいた。

【質疑応答】

委員 ポイントカードは何故ねこちゃんカードなのか？

稲武 昔からの商店街が招き猫をイメージに使っていたため。

委員 ポイントが貯まりやすい日や集める楽しみを誘発するようなイベントなどを実施しているのか？

稲武 毎月1、2、3日は3倍ポイントデーとしており、年2回満点カード（500円分）での抽選会を行っている。

稲武 貯める楽しみが基本。貯まりやすさや色々なところで使えることが魅力になると思うので、加盟店舗を増やしていきたい。

委員 稲武はまちがまとまっているので、カード事業は効果があると思う。バイパス沿いの店は加盟しているのか？

稲武 活性化計画をきっかけに集客力のあるバイパス沿いの店に入ってもらおうと呼びかけていく。

委員 商店街はどれくらいの距離があるのか？

稲武 500mくらい。懐古館や瑞龍寺の桜などもある。

委員 観光で食べていけるか？

稲武 まだ足助ほどは育っていない。

委員 2通りの考え方がある。稲武の居住者が稲武で買物する仕組みを作るため、ポイントカード事業はしっかり進めていけば良い。もう一方で、稲武には外から人を呼んで来ることのできる、郷土資料館の浄瑠璃人形や宝来泉の酒ゼリーなど全国発信できる地域資源がある。地域内のお客を呼ぶ事業、地域外のお客を呼ぶ事業の2本立てで進めていただきたい。朝取りのとうもろこし、ブルーベリーなど稲武は農産物も良い。情報発信する仕組みを作ることが大事。桜町と連携し、八日市で出品してPRするとか。また、商品配達事業は、経費負担を商工会で背負いこむ心構えでしっかり実施しないとネット販売には勝てない。地域商店街は、地域と共に生きていくということをきちんと示すことは大事。

委員 道の駅から誘導する仕組みも必要。

委員 配達サービスは2ヶ月に一度ではなく、立ち上がりこそ集中的に行わなければ使われずに終わってしまう。もっと頻繁に行うべき。また、バイパス沿いの道の駅までは人が大勢来る。それをどう商店街へ誘導するか。バスだけでなく、道の駅に商店街割引サービス券を置かしてもらい、商店街へ誘導するなどの工夫をするなどできないか。

委員 委員会として当計画の認定は妥当であると考えている。

(2) 経営革新モデル店舗支援事業について

・西町商店街共同組合

西町商店街協同組合 奥村理事長、事業実施者 松澤氏より、資料4「経営革新モデル店舗支援事業対象事業者審議書」に基づき内容説明を行い、認定の際に参考とする意見を委員からいただいた。

【質疑応答】

委員 どれくらいの規模で実施するのか？

西町 乾燥機6機、洗濯機4機。20坪くらいで実施する予定。

委員 外国人宿泊客以外に顧客となるような方はいるか？

西町 地域内にいくつかマンションもあり、現在店舗前でも施工中。最終的には地域住民全部に来ていただきたいが、まずは外国人宿泊者がターゲット。観光協会から外国人用観光パンフレットを置くなどもしていきたい。

委員 有人にすることで顧客の安心感と機械の回転率を高める工夫をしている。あとは、どう認知してもらうか？ホテルと連携してPRしてもらったり、看板を設置するなど認知性を高めることが必要。汚れ落ち度をビフォーアフ

ターで見せるなどの工夫も考えてみては。安全安心面で防犯カメラの設置なども考えられる。

西 町 活性化計画に基づき商店街内にも防犯カメラを設置しており、安全安心をPRしている。

委員 PRする際、新聞の折込チラシでは枚数が多く見られない可能性もある。郵便局のタウンメールを利用すると価格も安いし、確実に届くので検討してみては。

委員 都心の駐車場の無いコインランドリーでは、洗濯中に店前にグループでたむろし、近寄りやすい雰囲気になっているケースもある。まちの景色としてどうか。待ちスペースの検討も。

委員 需要があるので良いのでは。

委員 ターゲットがしっかりしている。有人だし、入り易いのではないか。

委員 受付がいなくなっただけの心配は？

西 町 奥で仕事はしているので何かあれば対応できる。

委員 委員会として当計画の認定は妥当であると考えている。

7 その他

(1) 中心市街地活性化長期計画について

事務局より、資料5「中心市街地活性化長期計画(案)」に基づき内容説明を行った。

【質疑応答】

事務局 中活計画は5年間というイメージしやすい計画。20年後を見据えた商業のイメージは難しい。何か新しい視点でご意見がいただければ。

委員 豊田市の総合計画とリンクしていなければいけないし、基礎データも必要。

委員 商業統計では生協は入っていないのでは？そうすると豊田市の小売吸引力は1を超えるのではないか？

事務局 小売だけで4000億。生協が400億なので、ちょうど1になる。しかし、かつては生協を入れなくても1を超えていたときがある。他市も生協、農協は入っていない。豊田市は生協の力が非常に大きい。

委員 昔、中心市街地にそごうがあったときに300億売っていた実績がある。現在、松坂屋が奮闘しているが100億を超えるくらい。良かった時代とはいえ、実績があるのだから、まずはそこが目標にならないか。消費者のせいではなく、商業者が考えなくてはいけない。また、消費者を創造していくことも必要で、それは都市計画で考えていかななくてはならない。

委員 20年先の商業はどうなっているか。郊外型大型店との競合なのか、既に都心部でコンパクトな商業基盤ができあがっているのか。仮に郊外型との住み分けになっていたとして、中心にはどのような機能を持たせるのか。中心市街地に必要な機能を計画的に誘致する方策を考えていかなければいけない。それができないのであれば、中心市街地の居住人口を増やすという方策を取る必要がある。あとは、まちとしての面白さをどうするのか？意識的にイベントなど演出するしかけが必要ではないか。

委員 豊田ジャスコは昭和50年頃に出来た。その頃から車社会を想定し、駐車場を整備し、今もしっかり売上を上げているあたり、先見の明がある。豊田市も20年後をきちんと見据え、上手にやらないとすぐ箱物を作っ

まう。無駄をせずしっかり吟味をして、にぎわいのあるまちを作ってほしい。

委員 電気自動車が普及することを想定し、まちなかに充電所を設置したり、携帯端末によるIT利用でまち歩きが楽しめるといった未来都市のような発想もおもしろいと思う。

委員 まちの価値向上には魅力UPが必要。どういうまちにしたいかの具体的なイメージがないと答えにくい。ありきたりの話で終わってしまうか、個々の事業の議論になってしまう。空き店舗マッチングシステムについて、まち全体を一つのショッピングモールとして進めていくというのであれば、空き店舗をTCOMなりが全部借りて、きちんと管理していく必要がある。

委員 環境問題をしっかり考えていく必要がある。今できることを一人一人がしっかりやっていくことが必要。

委員 20年後は分からないことばかり。5年計画のPDCAをしっかり行うことが大事。先にも述べたが、そごうの時代に何故売れていたのかを検証することが必要。まちなかに流出したかというところでもない。ほとんどが外へ行ってしまった。当時のまちには吸収するだけの魅力がなかった。どういう魅力が必要だったのか。10年後、20年後を考えるには、データ集めとそれを分析していくことが重要。

委員 市の果たす役割と事業者の果たす役割、地域消費者・来街者の果たす役割を明確にして、三者一体となった方針を立てる必要がある。

8 閉会

事務局 長時間に渡り、活発にご審議をいただきありがとうございました。豊田ジャスコは40年間同じかたちで維持しており、すごいことである。少子高齢化時代、福祉と商業、まちづくりを結びつけるといった観点もあるのではと

今後の予定

第3回商業振興委員会開催予定日 平成20年3月17日(火)

以上